
君に捧げるもの

梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に捧げるもの

【Nコード】

N5388BA

【作者名】

黎

【あらすじ】

綺麗ごとだっと思うかもしれない。

でも綺麗ごとだって、ちゃんとした、その人の思いの一つ。

人の思いを軽んじることは、絶対にしてはいけないことだと思う。

そうされた人は、自分の思いを信じることができなくなるかもしれない。

ないから。

本当は、ずっと知りたかった。
わからないこと、全て。
だけど、君から逃げていた。

思い描く君との日々 願うほど辛く
今は夢く
『現実^{リアル}』が映し出す未来に

君はいるの？

僕はいるの？

それは本当？

事実

「となりに君はいない」
呟く 空に吸い込まれるように

「僕も、空^{きみ}みたいに綺麗だったら」
捧ぐ 一方的でも

「君だけを。ずっと君を」
どうしてだろう

「その隣に居ても」いいのなら

「それとも居ない方が」いいのかな？

「運命？ 偶然？ 必然？」

どれにしたって

「君のシアワセ願おうか」

溢れる とめどなく

抑えられなくて

零れて 落ちて 溺れて

会えない でもね、会いたい

矛盾する僕は、臆病者でしょ？

君の 感じている全て

想っていたい僕は欲張りでしょ？

何が弱さ？

何が強さ？

それさえわからなくて

だから恐れて

求めて良いわけがない 藻掻くことすら、許されない
そう想った

許されないのかな

許されなくて良い

君の枷になるくらいなら

届かなくても

叶わなくても

良いって思えるほどに、好きでした

そう思える恋をできて

それはきつとすごいこと

「僕が勝手に好きなだけだから、いいんだ」

だから、君のこと

ずっと、好きでいさせてください

大好きだ、って

伝えたくても、
君の幸せを壊すくらいなら、
僕が壊れよう

「
あいしてる」

部屋で呟くくらいは、許してほしいけど

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5388ba/>

君に捧げるもの

2012年1月14日21時51分発行